

単独維持困難申し出路線について

- ①御殿場線(御殿場市・裾野市・三島市) 【富士急行・富士急シティバス】
御殿場駅～岩波・裾野駅入口～三島駅
- ②駿河小山線(御殿場市・小山町) 【富士急行】
御殿場駅～一色～駿河小山駅
- ③十里木線(御殿場市・裾野市) 【富士急行】
御殿場駅～須山(富士サファリパーク)～十里木
- ④河口湖線(御殿場市・小山町※山梨県側:1市1町2村との連携含む)【富士急行・富士急山梨バス】
河口湖駅～(膳棚)旭日丘～御殿場駅
※御殿場プレミアム・アウトレット発着便(2者計 8.5 往復は含まない)

※①～④は国庫補助要件に該当する地域間幹線系統である。

【年度の考え方】

	平成 29 年												平成 30 年											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域間幹線 (国庫補助)																								
その他路線																								

平成 30 年度国庫補助

平成 29 年度市単補助等

①御殿場線

御殿場駅～岩波・裾野駅入口～三島駅（富士急行、富士急シティバスで共同運行）

◆ 運行目的(役割)

- JR御殿場線沿線を運行(補完)し、御殿場駅・裾野駅三島駅の主要駅を繋ぐ広域幹線である。
- 沿線には学校・病院・企業が多く存しているため、通学・通院・通勤を中心とする市間を跨ぐ生活移動に供することを目的に運行。
- また、静岡県外を結ぶビジネス移動や観光移動の交通結節点である新幹線三島駅、JR御殿場駅から県内への移動手段として広域移動の円滑化及び地域内の活性化を図ることを目的とし運行している。

◆ 運行の状況

- 運行回数
毎日 14.0 往復
- 利用人員
平日 1 日あたり 483 人
(年間 151,025 人/前年▲3,394 人)
- 地域間利用の状況
1 日あたり 175 人(約 36%)が市間をまたぐ利用
【内、御殿場市内関係】
◇ 御殿場市外への移動 約 32 人
◇ 御殿場市内への移動 約 43 人
- 時間帯別・地域別の状況
◇ 高齢者による日中の利用が多いが、時間帯により利用の少ない便がある。
◇ 夜間時間帯は三島駅～裾野市内の利用にとどまり、御殿場市内の利用がない。
- 収支の状況

【御殿場線】御殿場駅～裾野駅入口～三島駅 ※運行2者(富士急行、富士急シティバス)合算 (単位:千円)

年度	利用者数 (人)	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (A-B)	補助額		
					国庫補助	県補助	市町補助
平成26年度	146,911	83,104	42,053	▲ 41,051	10,712	10,712	0
平成27年度	154,419	76,599	39,895	▲ 36,704	10,389	10,389	0
平成28年度	151,025	80,705	38,421	▲ 42,284	11,378	11,378	0
合計	452,355	240,408	120,369	▲ 120,039	32,479	32,479	0

- ◆ 河口湖線とも親和性のある運行ということでH26.4に富士山の世界遺産などの環境変化を踏まえて輸送力の増強(平日 12 往復・土休日 13 往復→毎日 14 往復)を行わせていただき、毎日 1 時間間隔のダイヤとすることで再編前平日 1 日 371 人が平日 1 日 483 人まで利用者が増えました。(年間 122,914 人→151,025 人)しかしながら、増員分の収入が、輸送力増強に伴う経費増を賄えておらず、再編前の収支▲33 百万円より▲42 百万円と約▲10 百万円悪化して、3年間運行を継続している状況です。

(欠損額に対する分担:補助率 53%、自社負担 47%)

また、観光振興など弊社の取組みだけでは限界があり利用が大きく伸びる要素がないのが現状です。



【沿線施設】

日大三島(大学・高校)、三島北高校、中学校、小学校、裾野市役所、大橋医院、裾野市民文化センター、三菱アルミニウム、トヨタ自動車東日本、岡村製作所、矢崎部品、県御殿場合同庁舎、時の栖、復生病院 など

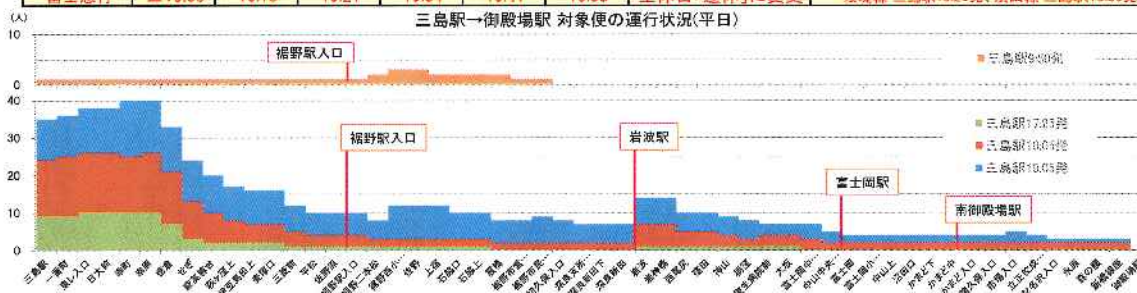
◆ 御殿場線の今後の運行について(案)

- 増員分の逸走を最小限にし減便を行い経費削減します。
 - ◇ 他系統と競合等により、利用の少ない便については、減便をいたします。
 - ◇ 土休日の利用が少ない夜間の便は、平日のみ運行に変更いたします。
- 生活利用に支障が出ないよう、平成 29 年 4 月 3 日(ダイヤ改正日)に実施

■ 運行時刻表(案)

(8/13～8/16、12/29～1/3 は日祝日ダイヤ運行) 運行記号: ▲ 土・日祝日は運休

運行事業者	三島駅 南口	幸町	裾野駅 入口	岩波駅	大坂	御殿場駅	代替手段
富士急行	8:30	8:35	8:46	8:59	9:06	9:20	
富士急シティ	9:25	9:30	9:41	9:54	10:01	10:15	
富士急行	9:50	9:55	10:06	10:19	10:26	10:40	減便
富士急シティ	10:30	10:35	10:46	10:59	11:06	11:20	須山線 三島駅9:55発、すそのーる富岡・深良循環
富士急行	11:40	11:45	11:56	12:09	12:16	12:30	
富士急シティ	12:30	12:35	12:46	12:59	13:06	13:20	
富士急行	13:30	13:35	13:46	13:59	14:06	14:20	
富士急シティ	14:25	14:30	14:41	14:54	15:01	15:15	
富士急行	15:25	15:30	15:41	15:54	16:01	16:15	
富士急行	16:00	16:05	16:16	16:29	16:36	16:50	
富士急行	16:40	16:45	16:56	17:09	17:16	17:30	
富士急シティ	17:25	17:30	17:41	17:54	18:01	18:15	減便
富士急シティ	18:05	18:10	18:21	18:34	18:41	18:55	須山線 三島駅17:10発、17:40発、桜堤線 三島駅17:20発
富士急行	▲19:05	19:10	19:21	19:34	19:41	19:55	土休日「運休」に変更 桜堤線 三島駅19:20発、須山線 三島駅19:35発

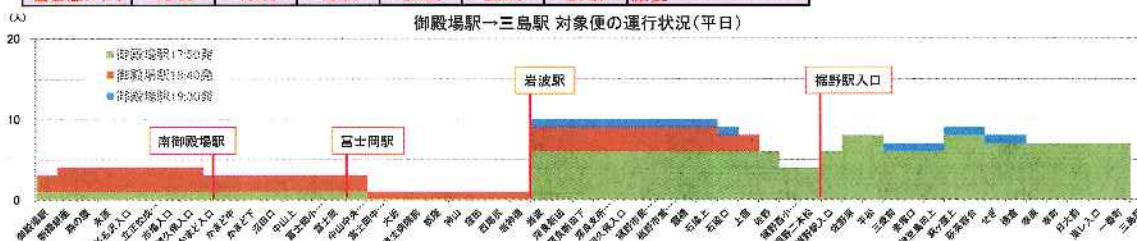


三島駅 9:50 は、須山線等に近い時間帯があり、御殿場線特有の利用もないため減便いたします。

三島駅 17:25 発は、石廊までの利用がほとんどであり、近い時間帯の須山線等で需要に対応できるので、減便します。

三島駅 19:05 発は、平日においては、裾野駅～御殿場間にも需要が見られますので、平日のみ運行いたします。土休日は平均乗車密度 1.5 人と利用が少なく、地域間利用もないため運休といたします。

運行事業者	御殿場駅	大坂	岩波駅	裾野駅 入口	徳倉	三島駅 南口
富士急行	6:50	7:04	7:11	7:24	7:33	7:40
富士急行	8:40	8:54	9:01	9:14	9:23	9:30
富士急行	9:40	9:54	10:01	10:14	10:23	10:30
富士急シティ	10:30	10:44	10:51	11:04	11:13	11:20
富士急行	11:40	11:54	12:01	12:14	12:23	12:30
富士急シティ	12:20	12:34	12:41	12:54	13:03	13:10
富士急シティ	13:40	13:54	14:01	14:14	14:23	14:30
富士急行	14:40	14:54	15:01	15:14	15:23	15:30
富士急行	15:30	15:44	15:51	16:04	16:13	16:20
富士急シティ	16:00	16:14	16:21	16:34	16:43	16:50
富士急シティ	17:10	17:24	17:31	17:44	17:53	18:00
富士急行	▲17:50	18:04	18:11	18:24	18:33	18:40
富士急シティ	18:40	18:54	19:01	19:14	19:23	19:30
富士急シティ	19:30	19:44	19:51	20:04	20:13	20:20



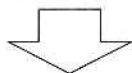
御殿場駅 17:50 は平日については岩波駅～三島駅間の需要に対応するため、運行を継続いたします。土休日は運休いたします。

御殿場駅 18:40 発は運行し、御殿場駅 19:30 発は利用者が少ないため減便いたします。

■ 運行回数(案)

(現状)

	平日			土休日		
	富士急行	富士急シティ	計	富士急行	富士急シティ	計
三島駅→御殿場駅	7	7	14	7	7	14
御殿場駅→三島駅	7	7	14	7	7	14
往復計	7.0往復	7.0往復	14.0往復	7.0往復	7.0往復	14.0往復



(変更案)

	平日			土休日		
	富士急行	富士急シティ	計	富士急行	富士急シティ	計
三島駅→御殿場駅	6	6	12	5	6	11
御殿場駅→三島駅	7	6	13	6	6	12
往復計	6.5往復	6.0往復	12.5往復	5.5往復	6.0往復	11.5往復

■ 調整の状況

- ◇ 平成 29 年 1 月 6 日 裾野市地域公共交通活性化協議会(第 2 回)承認
- ◇ 平成 29 年 1 月 17 日 三島市地域公共交通会議 協議予定

■ 運行見直しの効果(見込)

- ◇ 代替便への振替えによる若干の収入逸走はあるものの、年間▲29,430 kmの走行減により、約10百万円の経費の削減が図られます。

②駿河小山線

御殿場駅～一色～駿河小山駅(富士急行)

◆ 運行目的(役割)

- JR御殿場駅とJR 駿河小山駅を起終点とし、御殿場市内と小山町内を繋ぐ地域間幹線である。
- 朝夕は小山町内から御殿場駅方面への通学・通勤による生活移動を補完するため、日中は沿線に行政施設やスーパーなどの商業施設が存するため、役場や買い物移動など、地域間の広域的な生活移動を補完することを目的に運行。御殿場市と裾野市の須山地区を結び、通学・通勤・買い物等広域利用がある基幹路線である。
- 高齢者層を中心とした、病院・整形外科への通院手段を提供。

◆ 運行の状況

■ 運行回数

平日 16.0 往復 土休日 10.5 往復

■ 利用人員

平日1日あたり 417 人の利用 (年間 104,414 人／前年+828 人)

■ 地域間利用の状況

1 日あたり 128 人(約 36%)が市間をまたぐ利用

◇ 御殿場市内⇒小山町内 約 69 人

◇ 裾野市内⇒御殿場市内 約 59 名

■ 時間帯別地域別の状況

- ・高齢者による日中の利用が多いが、時間帯により利用の少ない便がある。
- ・小山町が実施する高齢者定期券購入助成制度、コミュニティバスとの連携により、高齢者の利用が増えている。

■ 収支の状況

【駿河小山線】御殿場駅～仲町～駿河小山駅

(単位:千円)

年度	利用者数 (人)	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (A-B)	補助額		
					国庫補助	県補助	市町補助
平成26年度	103,262	47,764	27,739	▲ 20,025	5,035	5,035	0
平成27年度	103,586	40,811	25,791	▲ 15,020	5,076	5,076	0
平成28年度	104,414	44,961	22,788	▲ 22,173	5,477	5,477	0
合計	311,262	133,536	76,318	▲ 57,218	15,588	15,588	0

路線図



【沿線施設】

御殿場市役所、小山町役場、小山町消防署、御殿場高校・中学校・小学校、御殿場保健センター・救急医療センター、高根小学校・中学校、明倫小学校など

③十里木線

御殿場駅～須山(富士サファリパーク)～十里木 (富士急行)

◆ 運行目的(役割)

- 御殿場市と裾野市の須山地区を結び、通学・通勤・買い物等広域利用がある基幹路線である。
- 高齢者層を中心とした、病院・整形外科への通院手段を提供。
- 十里木地区から須山小学校への通学の足となっている。
- また、十里木地区・須山地区からの通学需要や、通勤など鉄道・他の公共交通機関への接続に配慮した運行を行っている。

◆ 運行の状況

■ 運行回数

毎日 6.0 往復 ※うち 4.5 往復は富士サファリパークを経由

■ 利用人員

平日1日あたり約 152 人の利用(年間 47,449 人/前年▲4,156 人)

※28年度は天候不順もあり増収対策にもなっていた日中の観光利用が落ち込んだ。

■ 地域間利用の状況

◇ 御殿場市内⇒裾野市内 約 32 人

地元利用客に加えてサファリ、ハイカー、須山浅間神社等観光客

※今後は、富士裾野工業団地への通勤客も見込める。

◇ 裾野市内⇒御殿場市内 約 20 名

御殿場市内や県外への通勤、通学、通院、買い物

■ 収支の状況

【十里木線】

(単位:千円)

年度	利用者数 (人)	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (A-B)	補助額			備考
					国庫補助	県補助	市町補助	
平成26年度	47,038	34,221	20,317	▲ 13,904	4,556	4,556	0	
平成27年度	51,605	29,452	19,701	▲ 9,751	3,549	3,549	0	
平成28年度	47,449	32,449	20,482	▲ 11,967	4,458	4,458	0	



④河口湖線

河口湖駅～(膳棚)旭日丘～御殿場駅(富士急行、富士急山梨バスで共同運行)

※御殿場プレミアム・アウトレット発着便(2者計 8.5 往復は含まない)

◆ 運行目的(役割)

- 静岡、山梨両県を結ぶ唯一の広域系統であり、地域における一次交通として機能する。
- 県間を跨ぐ国道 138 号の通行が運行の大部分を占め、沿線には学校・病院・企業などの生活拠点ほか商業施設も多く存する。
- 主に山梨県から静岡への越県通学者や県内においては御殿場市と小山町の生活の足として利用される。土休日・繁忙時は観光客の移動を補完する役割も担うことから、地域間・地域内の活性化にも寄与する。

◆ 運行の状況

■ 運行回数

毎日 17.5 往復 ※うち 9.5 往復は膳棚(忍野村内)を経由

■ 利用人員

平日1日あたり約 381 人の利用(年間 233,602 人/前年比+53,376 人)

■ 地域間利用の状況

【内、御殿場市内関係】

- ◇ 御殿場市外への移動 約 51 人
- ◇ 御殿場市内への移動 約 156 人

■ 時間帯別・地域別の状況

- ◇ 日中は御殿場→須走間の生活利用が多い。また、朝夕の山梨県から静岡への越県通学者が存する。
 - ◇ 御殿場プレミアム・アウトレット発着便(8.5 往復)も含めて 30 分間隔で運行しているため、日中の生活利用も増えており、特に富士五湖を結ぶ訪日客の観光利用が急増している。
(アウトレット発着便年間:128,915 人)
- なお、アウトレット発着便の富士急行便(5.5 往復)は、28 年度で黒字化した。

■ 収支の状況 ※観光路線となっている御殿場プレミアム・アウトレット発着便の実績は、平成 27 年度途中(4/6～)まで反映。

【河口湖線】河口湖駅～旭日丘～御殿場駅 ※運行2者(富士急行、富士急山梨バス)合算 (単位:千円)							
年度	利用人数 (人)	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (A-B)	補助額		
					国庫補助	県補助	市町補助
平成26年度	244,638	172,851	141,232	▲ 31,619	17,053	13,809	0
平成27年度	236,726	162,866	134,666	▲ 28,220	18,329	10,626	0
平成28年度	233,602	161,891	103,757	▲ 58,134	6,543	4,792	0
合計	714,966	497,628	379,655	▲ 117,973	41,925	29,227	0



【沿線施設】

御殿場市立図書館、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、道の駅すばしり、天恵、JA御殿場、御殿場西高校、須走小・中学校、キリンディステイラー、JA須走、須走浅間神社、ケーズデンキ、日大セミナーハウス、森の駅旭日丘、文学の森公園、山中湖村役場、山中湖郵便局、山中湖小・中学校、忍野八海、ファナック、さかな公園、忍野温泉、自衛隊北富士駐屯地、道の駅富士吉田、富士吉田市立病院、富士吉田市立看護専門学校、北口本宮富士浅間神社、上吉田コミュニティセンター、都留信用組合、富士急ハイランド、渡辺整形外科

利用拡大・収支改善への主な取り組み

◆ 利用促進策

- 静岡県運輸振興助成金事業を活用し、市内の幼稚園・小学校を対象とした「バス乗り方教室」を実施し、バス利用の促進、きっかけづくりを図る。また、夏休みなど長期連休に合わせた施策を実施する。
- 沿線観光資源を活かしたタイアップ乗車券の制作検討。
- 新規利用者の獲得のための取り組み推進。(乗車密度の向上を目標)
 - ① バス利用案内戸別訪問の実施。用途に合わせたツール制作。
 - ② バスの乗り方案内ツールの制作。地域行政と連携した配布の実施。
 - ③ 幹線バスの運行態様を活用し、沿線自治体の観光振興活動などと連携する。
- 生活移動・観光移動の双方のバリア解消のため、バス利用環境の整備を行う。
 - ① インターネットによる時刻表・運賃検索システムの運用開始(平成 28 年 10 月開始)



- ② 乗換案内主要サイトである「ナビタイム」への幹線バス時刻を掲載(平成 27 年 2 月開始)。さらに、ジョルダン、駅すばあと等のコンテンツプロバイダに掲載を要望しております。
- ③ 既存車両の案内表示器(運賃表示器)の更新を実施
 - 古い表示器を、文字が大きい液晶式に更新
- ④ 超低床・低床バスの積極導入。

◆ 富士急行

- 平成 27 年 10 月 ノンステップバス2両導入
- 平成 28 年 7 月 ノンステップバス2両導入
- 平成 28 年 9~10 月 ノンステップバス4両導入
(現在の低床・超低床バス率 100%)

◆ 富士急シティバス

- 平成 27 年 3 月 ノンステップバス1両導入
- 平成 28 年 3 月 ノンステップバス2両導入
- 平成 29 年 1 月 ノンステップバス2両導入予定
(導入後の路線バス 低床・超低床バス率 88%)

◆ 経費削減策

- 車両・燃料・オイルなどの仕入れについて、富士急グループ全体での仕入れを行い、スケールメリットを生かしたコスト削減を実施した。
- アイドリングストップの実施を徹底し、エコドライブによる燃料使用削減＝経費削減を図った。
- 車両の更新による燃費向上と修繕費削減を実施。